会　議　要　旨

会議名称	令和３年度　加古川市環境審議会
開催日時	令和４年２月 17 日（木）午後２時から３時まで
開催場所	加古川市役所　新館 10 階　大会議室
出席者	＜委員＞（敬称略、順不同） （出席者：17 名） 岡田義則、工藤仁、成川利幸、松木照男、丸山良作、山本亜也夫、井関崇博、奥勇一郎、清野未恵子、佐竹邦子、豊田陽介、橋本佳延、石野悟、松岡智郁、畠山恵子、堀江智恵子、守家和子 （欠席者：２名） 河合豪史、原幸子 ＜事務局＞ （出席者：７名） 川上雄司、新濵義孝、西村信彦、藤本雅彦、山中多仁亜、高橋翔太、神田結奈
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 （１）部会設置（案）について （２）各部会に所属する委員について ４　報告事項 「第２次加古川市環境基本計画（改訂版）」の取組結果について ５　その他 ６　閉会
配付資料	資料１　加古川市環境審議会委員名簿 資料２　部会設置（案）について 事務局案　各部会に所属する委員について 資料３　「第２次加古川市環境基本計画（改訂版）」の取組結果について 資料３－１　環境指標の取組結果について 資料３－２　環境施策の取組結果について 資料４　「第２次加古川市環境基本計画（改訂版）」に基づく環境教育・啓発の実施結果
傍聴者の数	０人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、傍聴席の設置を控えたため。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	１　開会
（会長）	２　あいさつ 　　橋本会長よりあいさつ
（事務局）	３　議題 （１）部会設置（案）について 　地球温暖化対策部会、自然環境部会、環境保全部会の３つの部会の設置案について説明。
（会長）	今後の脱炭素に向けた取組が必要だが、地球温暖化対策部会で積極的に進めていくのか。
（事務局）	そのとおりである。ゼロカーボンに向けて、第３次加古川市環境基本計画の温室効果ガス排出量削減目標の見直しが必要であるため、令和４年度に一度、地球温暖化対策部会の開催を予定している。
（事務局）	（２）各部会に所属する委員について 　各部会に所属する委員について、事務局案を説明。
（事務局）	４　報告事項 「第２次加古川市環境基本計画（改訂版）」の取組結果について 　「第２次加古川市環境基本計画（改訂版）」が、令和２年度で最終年度を迎えたため、計画期間であった５年間の取組結果について報告。
（会長）	資料３－１において、温室効果ガス排出量の平成 29 年度の結果が前年度と比べ8.5%減少しているが、大幅に削減できた理由を教えてほしい。
（事務局）	原因の一つとして、電力排出係数が下がったことが考えられる。加えて、民生業務部門で、設備の省エネや節電が進み、電力及び化石燃料使用量の削減が進んだことが考えられる。
（会長）	資料３－１に生活排水処理率を高める対策として、下水道接続時の補助等があるが、接続したくても費用の面で接続できないという状況もあるのか。
（事務局）	担当課からは、特に高齢者において、下水道接続の費用負担の面で躊躇していると聞いている。
（委員）	資料３－２、７ページ上で生息調査が複数記載されているが、同じ調査

	を重複して記載しているのか、それともそれぞれ別の団体が実施した調査なのか。
（事務局）	市民活動団体と自然観察イベントを実施した際に、見つかった生きものをデータとして収集しているものと、イベントとは別に、職員と市民活動団体で調査したものがある。
（委員）	業者に委託した調査やモニタリング調査、市民への啓発を含めて行う調査では意味合いが異なるため、区別して記載するべきである。
（委員）	資料３－２、14 ページ上の 21「学校給食の調理くずや残飯を堆肥化し、学校花壇等で活用する」の取組結果として、生ごみ処理機の使用件数が記載されているが、使用する機器の件数が減っているのか、それとも毎年新たに稼働したものを追加で記載しているのか。
（事務局）	生ごみ処理機が故障してしまっており、以前は９台あったが、更新できないというのが現状である。取組結果には、現在稼働中の件数を記載している。
（委員）	資料３－１の太陽光発電設備導入規模について、件数が平成 29 年度の 8800 件から令和２年度の 10300 件まで増加しているが、増加したことで、温室効果ガス排出量の削減量は把握しているのか。また、件数より発電容量で示す方が分かりやすい。
（事務局）	発電量 1kwh あたりの温室効果ガス削減量から、おおよその削減量を算出できるため、その量は事務局で把握している。また、導入規模の表現について、第３次加古川市環境基本計画では、件数ではなく発電容量で進捗管理をしていく。
（委員）	温室効果ガス排出量が減少している背景として、再生可能エネルギーの割合が国全体で増えたことにより、地域の電力排出係数が下がっていると考えられる。国の速報値を確認しても、新型コロナウイルスの影響で活動量が下がり、交通部門や産業部門で大幅に排出量が削減している。また、太陽光発電による温室効果ガス排出量の削減量については、地域の削減量として反映しにくいため、他の方法で評価するのが良い。
（委員）	資料３－１のアダプトプログラムの登録団体数について、現在登録団体数が増加傾向にあると記載されているが、どのような団体が増加したのか。
（事務局）	環境問題に興味がある団体が増えており、令和３年度現在は 45 団体の

	登録があると聞いている。
（委員）	登録団体が自治会から市民活動団体等に移行していると思うが、市民活動団体でも継続して活動できるよう支援していけたら良い。
（会長）	資料３－１の遊休農地解消支援面積について、取組結果に記載の面積は、累計か新規追加分か。
（事務局）	記載している面積は累計ではなく、現在の面積である。
（会長）	ごみの資源化率が下がっている一方、市民一人あたりのごみ排出量も減っている。コロナ禍で一時期大量にごみが出たと思うが、市内の不法投棄の状況に変化はあったか。
（委員）	一般廃棄物の不法投棄は各地域で後が絶えない状況ではあるが、増えている印象はない。
	５　その他
（事務局）	令和４年度の地球温暖化対策部会の開催について案内。
（委員）	近年、急に世の中が SDGｓに取り組み始め、反対意見が言いづらくなっているように感じる。例えば、牛を育てるのに大量の CO_2 が必要であるとい理由から、牛の消費を止める記事が出てくるなど、極端な事例が出てきている。環境基本計画の取組を進めていくうえで、最も大切なのは、環境像の実現であり、具体的な施策はその次である。今一度立ち返り、取組を見返す必要がある。
（委員）	SDGｓは、矛盾を解消するために様々な行動を起こすというところに、学びがあると思う。SDGｓをきっかけに、感じている違和感に声をあげられる社会になれば良いと思う。
（委員）	本質的に間違っていることは改善していき、2050 年のカーボンニュートラルに向けて、目標を達成できるようにしてほしい。
（会長）	あくまで SDGｓは目標群であり、一番重要なのは、誰一人取り残さない社会を作ることである。環境を改善するために、誰かが取り残されてはいけない。また、SDGs を絶対視すると、環境ファシズムのように捉えられてしまう。どんなに良い事だとしても、すぐに適応できないこともあるので、SDGｓ目標の 2030 年、ゼロカーボン目標の 2050 年までに、どのように加速的に目標を達成していくか考えるべきである。誰一人取り残さない社会をどう作っていくかということに、審議会の役割があると思う。レジ袋や

	ヴィーガンの問題は SDGｓに絡めて強調されているが、先鋭的な例の一つでしかない。30 年前に叫ばれていた環境問題に対して、社会全体がようやく SDGｓのもとで動き出したように思う。全体としては、SDGｓをものさしとして、自分たちの活動を点検し、積極的に改善していくことが必要である。また、環境審議会なので、環境部分のみを取り扱うが、それが他分野に影響を与えることもある。そのため、環境の部分だけでなく、市の施策全体に反映し、調整しながら推進してほしい。 ６　閉会